



適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	D B Nを含む農薬の総使用回数
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	スギナ	秋冬期～春期 (雑草発生前 ～発生始期)	6～15kg/10a	1回	全面土壌 散布	1回
		一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 (まめ科を除く)		6～12kg/10a			
水 稲 (刈取跡)	水 稲 刈取跡	一年生雑草	水稲刈取後 秋期雑草発生前 ～発生始期	3kg/10a			
りんご	—	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 (まめ科を除く)	秋冬期 (11～12月積雪前)	6～8kg/10a			
桑		一年生雑草	春期の雑草 発生前～ 発生始期	7～8kg/10a			
樹 木 等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道 等	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草	雑草発生前 ～発生始期	8～12kg/10a	3回以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に全面 土壌散布	3回以内
		スギナ		8～15kg/10a			
いぐさ	—	一年生雑草 マツバイ ミズハコベ	3月上旬～ 4月上旬	3kg/10a	2回以内	湛水散布	2回以内





⚠ 効果・薬害等の注意



- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生始期に使用する。
- 本剤はイネ科雑草に対しては効果が劣るので、イネ科雑草が優占する場所での使用はさける。
- 土壌が乾燥していると効果が不十分となるので雨上がり等の土が湿った状態で使用することが望ましい。
- 本剤はまきむらによって効果が不均一となったり薬害を生じるおそれがあるので、特に均一散布に留意する。
- 本剤は処理後地表面から薬剤が気化し、気象条件などにより滞留した場合、下枝の葉や果実に薬害を生じるおそれがあるので、風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所での使用はさける。
- 次のような場所では薬害のおそれがあるので使用をさける。
 - ① 極端な砂質土壌。
 - ② そ菜（かぼちゃ、うり類など）、花き（菊など）、ホップなどの栽培園に隣接している場所及びその栽培予定地。
 - ③ 新植後3年未満又は間作予定の果樹園、桑園。
 - ④ **ハウス、温室などの施設内及びその周辺並びにそれらの設置予定地。**
 - ⑤ 移植後間もない樹木の周辺。
- 水田作物（水田畦畔）の「ナガエツルノゲイトウ」に使用する場合は、春期の発生前に散布を行う。
- 水稻（刈取跡）に使用する場合は、特に以下のことに注意する。
 - ① 本剤散布後の圃場は翌春までそのままにしておくのが最も効果的で、秋耕はしない。
 - ② 翌春、水稻以外の作物を栽培する予定のある場合は使用しない。
- いぐさに使用する場合は、特に以下のことに注意する。
 - ① 対象水田の土壌は埴土～壤土とし、1日の縦浸透 0.5cm 以下の漏水の少ないところで使用する。砂壤土や減水深の多い水田では使用しない。また散布後少なくとも1～2昼夜は水の流れを止め、その後も散布した時の湛水状態を保つようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
 - ② 既発生の雑草（特にコナギなどの広葉雑草）に対しては効果が不十分となるので雑草発生前～発生始期に時期を失しないように散布する。また雑草の発生がだらだらとなる場合は3月上旬と4月上旬の2回処理する。
- りんご、桑に使用する場合は、特に以下のことに注意する。
 - ① 本剤は年1回の使用とし、連年使用は行わない。
 - ② 薬剤処理後、中耕すると薬害を生じるので土壌混和は行わない。
 - ③ 桑に使用する場合は、葉にかかると薬害を生じるので春期桑の発芽前に使用する。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、特に以下のことに注意する。
 - ① 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。
 - ② 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることをないように十分に注意して散布する。
 - ③ 水源池等に本剤が飛散、流入しないように十分注意する。
- 堤とうやのり面などの「アレチウリ」に使用する場合は、春期の発生始期までに散布を行い、その後発生状況に応じて、30日間隔で反復散布を行う。
- 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。





安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用はさけ、河川等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

養魚田周辺での使用は、特に注意する。

保 管…密封し、直射日光をさけ、種子、苗、肥料、他の農薬などと隔離し、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

